

## 中央アジア地域研究のための基本文献

### <事典・工具書>

- 小松久男・梅村坦・宇山智彦・帯谷知可・堀川徹(共編)『[中央ユーラシアを知る事典](#)』平凡社、2005年

ソ連の解体によって私たちの前に出現した中央ユーラシア地域について、最新で豊富な解説と情報を収めている。2007年に刊行された第2刷の利用を勧める。

- 小杉泰・林佳世子・東長靖編『[イスラーム世界研究マニュアル](#)』名古屋大学出版会、2008年  
イスラーム世界の一部としての中央ユーラシア地域に関する最新の研究動向がコンパクトに解説されている。現地の文書館などに関する情報も有益。

- 帯谷知可・北川誠一・相馬秀廣編『[中央アジア](#)』朝倉書店、2012年(朝倉世界地理講座 5)  
この地域の自然環境・生活文化・歴史・政治経済・芸術をテーマとした50余名の専門家による論文を集めた大冊。この地域の概略について知ろうとする際には、まず最初に手にすべき一冊。

### <入門・概説書>

- 宇山智彦編『[中央アジアを知るための60章](#)』明石書店、2003年

中央アジアの歴史、文化、社会、政治など幅広いテーマを簡明に説明した60章からなり、情報満載の読みやすい一冊。[2010年刊行の第2版](#)を勧める。

- 宇山智彦『[中央アジアの歴史と現在](#)』東洋書店、2000年

中央アジアの歴史と現在の政治・社会をコンパクトに解説した質の高い概説書。「[ユーラシア・ブックレット](#)」シリーズの一冊。

- 坂井弘紀『[中央アジアの英雄叙事詩:語り伝わる歴史](#)』東洋書店、2002年

文字をもたない中央アジアの遊牧民の間で、記憶を伝える手段として特別の意味をもつ口承文芸について簡潔に解説した概説書。「[ユーラシア・ブックレット](#)」シリーズの一冊。

- 城田俊『[ことばの道:もう一つのシルクロード](#)』大修館書店、1987年

ユーラシアの東西を結んだ文化交流の興味深い諸相を、言語や文学、歴史などさまざまな面から解き明かしている。ロシア語やロシア文化に関心を持つ人にも広く薦めたい。

- ティムール・ダダバエフ『[社会主義後のウズベキスタン:変わる国と揺れる人々の心](#)』アジア経済

## 研究所、2008年

ウズベキスタン出身の著者が、現代ウズベキスタンの国民生活・政治・経済・社会の等身大の姿を簡明に解説した読みやすい新書。

### ○濱本真実『[共生のイスラーム：ロシアの正教徒とムスリム](#)』山川出版社、2011年(イスラームを知る 5)

帝政ロシアには2000万人ものイスラーム教徒が住んでいた。本書はイスラームと正教との相互関係の動態とムスリム社会の変容を明快に解説している。ロシアに関心を持つ人にもお勧め。

### ○カトリーヌ・ブジョル(宇山智彦・須田将訳)『[カザフスタン](#)』白水社、2006年

古代から現代にいたるまでのカザフスタンの歴史を概観し、さらに現代の政治・経済・社会についても記述された概説書。「文庫クセジュ」の一冊。

### ○堀江則雄『[ユーラシア胎動：ロシア・中国・中央アジア](#)』岩波新書、2010年

現代の中央アジアとその東西の大国、ロシアと中国が作り上げているユーラシア規模の国際関係、資源開発、物流などのダイナミックな動向を現地取材をまじえて生き生きと描いている。

### ○間野英二『[バーブル：ムガル帝国の創設者](#)』山川出版社、2013年(世界史リブレット 人 46)

ティムール朝最後の君主で、後にインドに入ってムガル帝国を築いたバーブル(1483-1530)の波乱に富んだ生涯とその回想録『バーブル・ナーマ』の魅力をわかりやすく解説する。

### ○オリヴィエ・ロワ(斎藤かぐみ訳)『[現代中央アジア：イスラーム、ナショナリズム、石油資源](#)』白水社、2007年

ソ連時代以降、現代までの中央アジア各国について、ナショナリズム、地域対立、言語政策、イスラーム、石油資源などの要点を押さえながら解説した概説書。「文庫クセジュ」の一冊。

## <通史>

### ○小松久男編『[中央ユーラシア史](#)』(新版世界各国史4)山川出版社、2000年

中央アジアと東トルキスタン(中国新疆)、モンゴル、チベットを対象とした通史で、全体像を俯瞰するには便利な一冊。2010年に刊行された第3刷の利用を勧める。

### ○V.V.バルトド(小松久男監訳)『[トルキスタン文化史 1・2](#)』平凡社、2011年

帝政ロシア末期からソ連初期にかけて活躍した中央アジア史の碩学による概説。通史というよりは、各時代の特徴を描くことに努め、とくに帝政ロシア統治期のトルキスタンに詳しい(第2巻)。

<専論・研究書>

○岩崎一郎・宇山智彦・小松久男編『[現代中央アジア論:変貌する政治・経済の深層](#)』日本評論社、2004年

1991年のソ連解体後の中央アジアの政治と社会、経済を分析した質の高い論文集。ソ連時代との比較も含んでいる。

○ティムール・ダダバエフ『[記憶の中のソ連:中央アジアの人々の生きた社会主義時代](#)』筑波大学出版会、2010年

ウズベキスタンにおけるインタビュー調査から得られたソ連時代の記憶を資料として、社会主義時代の実像を再構成しようとした意欲的な試み。

○小松久男『[革命の中央アジア:あるジャディードの肖像](#)』東京大学出版会、1996年

ソ連崩壊後に初めて利用可能となった多くの現地語史料を駆使しながら、一人の改革主義者の思想と生涯をたどることで激動の時代を描き出し、新たな歴史の評価をおこなった先駆的な研究書。

(2013年9月 小松 久男、島田 志津夫)